

目的

個性化、多様化、流動化の著しい現代のファッション大衆化社会における女子大生の衣生活を、主としてファッション意識に焦点を当て、その構造や形成要因(従属変数)を、これに影響を及ぼす基本属性(独立変数)や生活構造要因、生活意識要因(媒介変数)などとの関連のなかに明らかにすることによって、ファッションということが今日の女子大生にとってどのような意味をもっているのかをさぐる。

方法

理論仮説にもとづく分析モデルとして、測定可能な変数を選り出し、同一項目に及ぼすこれらの調査表を作成し、関西地区の大学(国立、私立)の女子大生(1~4年生)600名を対象に、記名留置法によるアンケート調査を行った。ファッション意識に関する同一項目への反応を、数量化理論Ⅲ類によって処理し、類型設定に有効な軸を抽出、ついで軸上の得点を主成分クラスタ分析で行ない、女子大生の類型を求め独立変数や媒介変数との関連を分析した。

結果

数量化理論Ⅲ類によって抽出された主要な軸は、1.ファッションへの意欲の高いグループと低いグループを弁別する軸、2.ファッションへの評価が高いグループと低いグループを弁別する軸、3.ファッションへの関心の高いグループと低いグループを弁別する軸である。これらの軸上の得点を主成分クラスタ分析を行った結果、主要な5タイプが析出され、独立変数や媒介変数との関連が明らかになった。